

■誌上発表5

1 研究主題 私の箱

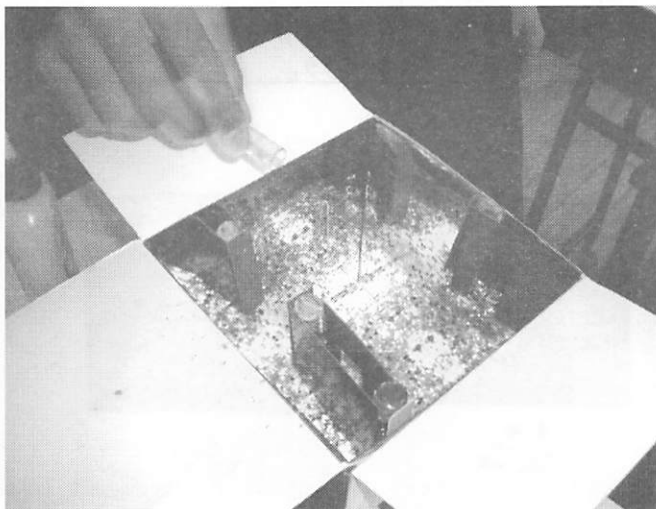
2 提案者 江東区立深川第一中学校 教諭 二階堂 洋子

3 テーマと題材の関わり（題材設定の理由）

自分をオブジェで表現するという事は、自我意識が高まる中学3年生は強い関心を抱く。「自分」とはどんなものかといわれて、一言で表現できる人はいない。それほど人間というのは多種多様で、心の中にたくさんのものを内包した総合的な物である。この総合的な存在を表現しようとするには言葉だけで表現することは難しく、むしろ色や形、素材からの感覚といったイメージ的な物を組み合わせの方が表現しやすい。また「この色は自分のこんな性格を表している」などのように、ことばで表現の意図を意識しながら制作に取り組むことになる。しかも制作の意図が上手く表現できているかどうかは、常に自分の中にある身体感覚で感じ取ることができるので、表現意図を追求するために能動的に色や形、素材を扱うことができる。

4 学習の目標

- (1) 「自分」を言葉や色・形に置き換えてイメージでとらえることができる。
- (2) 形や色彩、材料などの持つ印象や感情を理解し、構想に生かすことができる。
- (3) 表現の意図にあわせて材料や技法などを選択し、効果的に扱うことができる。
- (4) 表現の意図を言語で説明することができ、作者の表現意図に気付くことができる。



5 評価の観点

- (1) 関心・意欲・態度
 - ① 意欲的に制作に取り組む。
- (2) 発想や構想の能力
 - ① 表現対象を言葉や色・形に置き換えてイメージでとらえる。
 - ② 色や形、材料のもつ印象や感情を踏まえて豊かな構想を練る。
- (3) 表現の技能
 - ① 形や色彩、材料などのもつ印象や感情を理解し作品に生かす。
 - ② 表現の意図に応じて材料や技法などを工夫して制作する。
- (4) 鑑賞の能力
 - ① 表現の意図を言語を通じて他者に分かりやすく説明する。
 - ② 他者の表現意図に気づき、よさを味わう。

6 学習計画（全14時間）

(1) 用具・準備

- ① 材料 箱展開図形台紙 描画材料多種 素材類多種 糊 セロハンテープ類
- ② 道具 はさみ カッター ペンチ きり 定規 他
- ③ その他 「私の箱」構想プリント

(2) 展開

次	時	学習活動	指導上の留意点
一	1	・箱形の、自分自身を表すオブジェを作ることを知る。	・箱の外側は他人から見た自分、内側は自分の心の中を制作することを知らせる。

		<ul style="list-style-type: none"> ・構想プリントを使って、班で互いに「〇〇さんのイメージ」を言い合う。 ・他人から出されたイメージを基に自分なりに表現を工夫して箱の構想を練る。 ・構想をアイディアスケッチとして大まかに描く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他人から出された自分のイメージは、とりあえずは受け入れることを話し、班の発言を活性化させる。 ・ものの配置や向き、大きさなどでイメージが変わることに気付かせる。 <p>評価の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他人のイメージを積極的に発言できたか。 (意欲) ・配置や向き、大きさなどの表現を工夫して構想を練り、アイディアスケッチとして描くことができたか。 (構想)
二	8	<ul style="list-style-type: none"> ・「他人から見た自分」のイメージになるように、箱の外側を描く。 ・描画材料や描画方法を自分で選択してイメージに近づくように制作する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉で表現された自分のイメージと、色や形のもつ印象が一致するように意識させる。 ・自分が表現したいイメージがはっきりしている生徒には、描画材料や描画方法のアドバイスを適宜与える。 <p>評価の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に制作に取り組むことができたか。 (意欲) ・表現したいイメージを明確にもつことができたか。 (構想) ・描画材料や描画方法を工夫して表現を深める制作ができたか。 (技能) ・色や形のもつ印象や感情を表現に効果的に利用することができたか。 (技能)
三	4	<ul style="list-style-type: none"> ・心の中の「感情や気持ち」をどんな材料を使ってどのように表そうか構想を練る。 ・材料や技法を自分で選択し、「自分の心の中」を箱の内側に制作する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・材料から得られるイメージが自分の感情や気持ちを引き出す引き金になるように、多種多様な素材を自由に使えるように用意する。 ・表現方法にはなるべく制約を加えないようにする。 ・表現そのものが楽しくなってしまう生徒が多いので、適宜「これは何を表してるの?」と質問し、言語で自己の表現意図を確認させる。 <p>評価の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・制作を楽しんで取り組むことができたか。 (意欲) ・材料や表現方法を生かした構想を練ることができたか。 (構想)
まとめ	1	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の制作意図を作品解説に書く。 ・文化祭で作品解説とともにお互いの作品を鑑賞し合う。 ・他者の作品のよさや工夫など、感じ取ったことを感想として書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「どんな表現方法で」「どんなイメージ」を表現しようとしたのかを言葉で書かせる。 <p>評価の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他人に自分の表したいイメージが伝わるように制作することができたか。 (技能) ・自分の作品の表現意図を分かりやすく説明することができたか。 (鑑賞) ・作品のよさや美しさを豊かに感じ取ることができたか。 (鑑賞)